

## リアルタイム現地情報

「ピーマンの炭酸ガス施用現地検討会を開催しました」

6月11日に、「鹿島南部地域ピーマン営農体系確立検討協議会（以下、協議会）」の第4回現地検討会を開催し、協議会構成員17名が出席しました。当協議会は、鹿嶋・神栖地域のピーマン産地での炭酸ガス施用技術を確立するため、令和2年7月にJAなめがたしおさい、市町村、ネポン（株）、農業総合センターおよび鹿行農林事務所を構成員として設立されたものです。

当日は、まずはピーマンの半促成栽培ほ場で、普及センターから炭酸ガス施用による生育・収量について情報提供を行いました。その後、生産者から、「炭酸ガス施用により生育が促進され、水や施肥量を増やし、管理作業をまめに行う必要があった」などのコメントをいただきました。本試験ほ場では、炭酸ガス施用区と対照区を隣接して設置していることから、両区の生育状況などを比較しながら検討を行うことができました。

現地検討会后、JAなめがたしおさい波崎支店で、半促成栽培と同様に炭酸ガス施用実証試験を行なっている促成栽培についても検討しました。促成栽培では、今後の検討事項となる病害虫や湿度管理についての課題が挙げられました。

促成、半促成栽培ともに6月中に栽培が終了するため、普及センターは現地調査の結果を取りまとめるとともに費用対効果などを算出し、今後の炭酸ガス施用技術の普及について協議会内で検討する予定です。

高木素紀（儲かる農業）



炭酸ガス施用圃場での検討の様子



室内検討の様子